

小泉秀信先生ご退職に際して

2011年度実習委員長 小 山 聡 子

小泉先生には、実習指導室長としてご着任いただく数年前から、実習巡回指導の非常勤講師としてお世話になっていました。本学の社会福祉学科をこよなく愛し、熱心にご指導下さるお姿と、また何より気さくで面倒見の良いお人柄にほれ込んで、無理を言って勤務条件の必ずしも良いとは言えない実習指導室長の任をお受けいただいたのです。

年度初めに行う新入生への自己紹介時に、小泉先生が必ずおっしゃるのが戦争と平和の問題です。先生は、東京大空襲の日に、防空壕の中でお生まれになったとのことで、その後の育ちを通して平和なしには何事もあり得ないということを感じていらっしゃるということを強い言葉で学生に投げかけるのです。

小泉先生の強みは、ご自身の福祉職としての地方公務員経験を生かした、その教育方法にあります。社会福祉士科目を受講する学生の意思を確認し、決意を固めてもらうための鳥羽口にあたる社会福祉実習論では、これまでに培ってこられた人脈、ネットワークに物言わせて、社会福祉援助関連のありとあらゆる施設機関から様々なゲストスピーカーをお招きすることにご貢献下さいました。また、持ち前の面倒見の良さから、卒業生とのつながりも強く、2010年度から強化するようになった本学科卒業生招聘への依頼もスムーズで、在学生に対して、生き生きとしたロールモデルを見せることが可能となりました。

社会福祉援助技術演習Ⅱ、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰと同Ⅱにおいては、公的分野（福祉事務所と社会福祉協議会）を中心にご担当いた

きました。先生のご報告にあるように、グループディスカッションを中心としつつ、毎回レポートを課し、またその領域個別の課題にとどまらず、広く社会福祉職として立っていくために必要な資質や、ひいては社会人一般として必要な能力の涵養にも心を砕かれた時間だったと思います。特に指導Ⅱの授業で学生の気づきや抱負等授業成果を小冊子にして配布されたのは、学生にとって何よりのプレゼントでした。

このように、こよなく授業を愛し、学生を愛する小泉先生のもとには、実習を始めとする大学での勉強に関してのみならず、就職や転職の悩み、果ては恋愛相談から私達常勤の教員への不満まで持ち込まれ、先生は大わらわだだったと思います。実習指導室の機能について再度確認整理し、途中からは小泉先生のご負担を考慮して受け付ける課題の交通整理を若干行いました。それでもなおかつ、お人柄に吸い寄せられるように集まる学生は今に至るまで本当に多かったのではないのでしょうか。私たちは、先生の眼前でこそ顕在化する学生たちの悩みやホンネがあるという、その実態そのものからあるべき大学の教育や支援体制について、本当に多くのことを学ぶことができました。

小泉先生は、プライベートでは愛すべき恐妻家であり、またこのほどご長女にお子様生まれ、めでたくおじい様になられました。お嬢様が結婚式で読まれたという感謝の言葉とご家族の写真が大切に手帳にはさまっているのを私は知っています。多くの宝物に恵まれた小泉先生、益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当に有難うございました。

